

情勢報告

最新のハウス仕様に驚き！「穴内ナス部会」の開催



最新の耐震重油タンクを説明する
JA職員（右）

3月19日、穴内集出荷場のナス生産者17人が参加して現地検討会（安芸・芸西）と勉強会（穴内集出荷場）が開催されました。

現地検討会では「透湿性カーテンの水平張り」「両谷換気」「耐震重油タンク」など穴内地区ではまだ導入されていない最新のハウス仕様に関心が高まりました。

その後の勉強会で振興センターは「ナスフザリウム立枯病対策」「異物混入対策」「野菜の消費動向」などについて説明し、さらなる対策の徹底や良食味品種「土佐鷹」の栽培を呼び掛けました。

今後、振興センターは5月に開催する「環境制御技術導入加速化事業」説明会への参加を呼び掛け、本事業を推進していきます。

芸西集出荷場ナス部会が現地検討会で環境制御技術の勉強！



環境制御装置について説明する普及指導員（左）

3月23日、芸西集出荷場ナス部会の現地検討会が開催され、29人が参加しました。

現地検討会では芸西で環境制御装置を導入している生産者1名のほ場内で、振興センターが環境制御技術（炭酸ガス施用時間、温度管理、灌水時間や回数等）について説明しました。生産者からは「炭酸ガスを施用したら水を良く吸うせいかな、ボケ果も少ないね」との声があり、環境制御装置への関心を高めることができました。

振興センターは引き続き環境制御技術の普及、栽培管理指導等によるナスの収量、品質向上への支援を行っていきます。

環境制御技術導入しませんか！～室戸出荷場キュウリ部会現地検討会～



「サイドの開閉や夜温管理はどうしている？」

4月11日、室戸集出荷場園芸研究会キュウリ部会はときわ研究所の職員を講師に現地検討会（2ヵ所）を行い、生産者3人が参加しました。

現地検討会では長雨で弱った樹の回復方法、褐斑病対策を中心に質疑応答が行われ、振興センターは環境制御技術導入農家の事例について説明しました。

今後も振興センターは、促成キュウリ生産者へ環境制御技術の情報提供をし、導入を勧めるとともに、他品目からキュウリへの品目転換を進めていきます。

情勢報告

加工用ワサビ初出荷に向けて巡回指導



株を試し掘り。収穫部位を確認中！

振興センターでは、ユズの補完品目として導入を進めている加工用ワサビについて、4月7日に北川村と安田町の栽培ほ場2か所を関係者（園芸連、JA）と巡回し、出荷直前の現地指導を行いました。

今年は初出荷であるため、株の状態、収穫のタイミング、収穫方法、調整の仕方などを参加者全員で検討・確認しました。振興センターからは今後の病害虫管理について指導を行いました。

初出荷は4月下旬から始まる予定です。振興センターは、本年作の問題点・課題を整理・検討し、面積拡大に向け生産者を募集していきます。

ユズ栽培勉強会の開催（春先の管理について）



春先の管理について勉強中！

4月14日、JA土佐あき柚子部東川支部を対象に、ユズの春先の管理について栽培勉強会を開催し、生産者18人が参加しました。

振興センターは、管内のユズの発芽状況や気象状況について情報提供を行うとともに、気象条件も考慮した、4月～5月にかけて発生が予想される病害虫等の防除や今後の栽培管理について指導を行いました。

振興センターは、JAと連携して今後も定期的に勉強会を開催し、適期防除等の指導を行うことで、果実品質の向上と生産者の所得向上を支援していきます。

アドバイザーによるイチジクタルトのブラッシュアップ



アドバイザーの指導のもとタルト試作中

26年度の農業創造セミナーを受講している農産加工グループ「イーハTOBU（奈半利町）」は、3月17日にアドバイザーの指導を受け、原価計算や原価を抑えるための手法等を学習しました。また、学習した内容や振興センターの記録をもとにタルトの試作を繰り返し、均一な味のタルトを作ることができました。

今後も振興センターは、出来あがったタルトの販売拡大に向けて支援していきます。